

★熊本震災活動報告 第74報～77報抜粋

<第3クール4日目(5月6日)の活動報告>

◇メンバー:

活動者7名+コレクティブ1名+コーディネーター1名

熊本県からの依頼 東京から1名

◇活動:

あんず:日中支援(1名) 夜間支援(1名)

介護福祉士会2名 10時～16時

<支援内容・活動内容>

◇あんず

- ・前日から夜勤者 15時終了。14時30分より 避難所被災者入浴支援。
- ・町内の病院受診同行。10時～16時 介護福祉士会 学生2名。

◇中央小学校。

- ・担当保健師にさしおり相談処のチラシをお渡しする。・水洗トイレが使用できるようになった為、障害者用トイレが清潔。・日赤診療を受け、処方箋を出してもらったが、薬をタクシーで取りに行ったら1万円かかったお年寄りがいたとのこと。

◇広安西小学校

- ・日赤診療が本日より午前中のみとなる。・今日から明日にかけて教室の避難者が体育館へ移動。・担当保健師チームは5月いっぱい。・さしおり相談処のチラシをお渡しする。

◇ハピネス

- ・女性更衣室が3か所設置された。・さしおり相談処のチラシをお渡しする。

◇交流情報センター・10時～関係機関申し送りミーティング。・担当保健師・岩手 DCAT と定期ミーティング。・障害者用トイレの手すりは本日届かず。夕方、確認の電話を入れる。明日、午後搬入。・自動ドアの障害者トイレ入り口に暖簾を設置。

◇さしおり相談処

- ・11時～17時 相談件数10件。
- ・夕方の食事配布時に相談処設置のチラシ配布。

◇益城町役場

- ・福祉担当の課長とお会いする。避難所から病院受診等の移動手段、女性用更衣室の整備、さしおり相談処の案内を各避難所で行うことについて了解を得る。

<第3クール5日目(5月7日)の最終日のまとめ>

◇メンバー：活動者6人+現地スタッフ+コーディネーター4人

◇議題：4日間を通しての感想、次のチームへの課題など

・前のチームの方が残ってくれたおかげで、前回の状況が分かって、何をどうしてこうなったのかということを知ることができた。残ってくれる人がいると新しいチームも動きやすいかなと思った。一週間移動なしでいられたら、もう少し何か改善ができることがあったのではないかなと思う。後2、3日あれば次にバトンタッチができるのかなと思った。保健師さんとの関係がコーディネーターと岩手のチームだけになってしまうので、そういう意味でも、何かうまく引き継げる方法があるのではないかなと思った。

・阪神淡路は医療でボランティアに行っ、今回は全然違う支援だった。相談所に二日間座って、避難している人たちの不安を聞くことしかできない。顔を見て笑ってくれるだけでも良いのかなという思いで支援をしていた。今後もなにかあれば手伝いたいと思う。

・始めて災害支援に参加して、自分の方が勉強になった。災害が起きてから2週間ほど経ってから来たので、ボランティアさんがたくさん入ってきたあとに調査をするということが、避難者にとって負担になることを知った。

・災害支援は初めてだったので、とても勉強になった。ボランティアがただ行くだけでは、支援者の都合で行動したり、何度も同じことを避難している人たちに聞いてしまいかえって疲れさせてしまうなど、混乱を招いたり逆効果になることを実感した。今回の支援チームに同行が出来て良かった。また資源マップという形で残せたことが良かった。最初の日の引継ぎをもう少し丁寧できないか。

・(福島からの2人。当日は事業所支援で最終ミーティングに出席できなかったため、コーディネーターが2人のことを話す)今回二人が自主的に、あんずの日勤・夜勤含め積極的に関わってくれた。自分達が被災者として、外部からの応援を受け入れた経験を活かし、あんずのスタッフの気持ちを察しながら事業所に関わってくれた。私への報告も仲間達に伝えることも、批判的なことは一切なく、スタッフ、利用者の気持ちを察することばかりの2人だった。

・自分自身、初日は何からして良いのか、何ができるのかも解らず、不安だった。当然、このメンバーに対しても何を指示して良いのかも解らなかった。振り返ってみると、このメンバーに助けられた5日間だった。相談所の開設、杖貸与、障害者トイレの手すり設置、2名固定での事業所支援等、短い期間でそれなりにチャレンジもできたのではないかなと思う、しかし、これはあくまでその前のコーディネーター2人が道筋を作ってくれたお蔭だと感謝している。最終日のメンバーの表情が任務を終えた達成感や安堵感で、とても良かった

のではないかと思います。とにかく、チームの皆さんに感謝したい。ありがとうございました。

★第4クール1日目(5月7日)の活動報告

◇メンバー: : 活動者6名+コレクティブ1名+コーディネーター1名

熊本県からの依頼 東京から1名

◇活動: 第3クールから第4クールへ交替

あんず: 午後より日中支援(1名) 夜間支援(1名)

<支援内容・活動内容>

◇あんず

・14時~18時まで日中支援

・16時~夜勤1名

◇中央小学校

・保健師不在

・老夫婦1組、本日教室から体育館へ移動(段ボールベッドは今日の時点では使用されておらず)

◇広安西小学校

・保健師不在。教室から体育館への移動が終了している

・昨日と全く様子が変わっている

◇ハピネス

・保健師在所

・高齢者1名入浴支援

・14時30分からの支援予約であったが、支援員の到着が14時30分ちょうどになってしまった

◇交流情報センター

・厚生労働省 生活困窮者自立支援室・本後室長、障害者雇用対策室・尾崎室長、移植医療対策推進室・鈴木室長、来所。・10時~関係機関申し送りミーティング・担当保健師・岩手チームとの定期ミーティング・食事を取に行くことができず、食べていない方もおられる。・11時 第4クール到着→第3クールから第4クールへの引継ぎ・介護福祉士会、地域包括支援センターと今後の支援のあり方について打ち合わせ。・避難者の食事・トイレ・夜間の見守り等、どこまで支援するのか?誰がしていくのか? 課題となっている一方で地域の福祉サービス、資源を活用していくことを積極的に行うことが重要と話し合う

◇さしおり相談処

・11時~17時: 相談件数7件

・9時、15時の2回、情報交流センター内でラジオ体操

<気が付いたこと等>

- ・第4クールのメンバーを迎え、図書室にて引継ぎを行う
- ・約1時間ほどメンバー同志でゆっくりと引き継ぐ時間をとってみた。これまでの交替時に「情報が少ない」という支援者からの声もあったようなので、あえてこのような時間をとってみた。
- ・情報を伝えたい側と欲しい側が必ずしも一致しない。第4クールのメンバーには次回のメンバーに何をどのように引き継ぐべきかをこの2日間少しでも一緒に考えられればと思う。
- ・早めの行動。出発確認が必要である（入浴介助の約束がギリギリの時間になってしまったため）

★第4クール2日目（5月8日）の活動報告

◇メンバー：活動者6名+コレクティブ1名+コーディネーター1名

熊本県からの依頼 東京から1名

あんず 日中支援（1名） 夜間支援（1名）

さしおり相談処

いこいの里の避難者の入浴支援

ハピネス、益城町役場・熊本県社会福祉協議会の災害対策本部訪問

<支援内容・活動内容>

◇入浴支援

- ・いこいの里の避難者の入浴介助（いこいの里よりあんずにお連れし、入浴介助）→女性1名、高齢者と知的障害のある娘さん親子

◇あんず

- ・9時30分～17時まで日中支援
- ・17時～宿直1名

◇ハピネス訪問

- ・担保健師と情報交換
- ・食事を受け取るのに1時間以上並ばないとならない状況で、それが苦痛で食事をもらっていない方がおられる
- ・ケアマネさんが1人来たが、避難者名簿が無いので解らないと言って帰っていった

◇交流情報センター

- ・10時～ 関係機関申し送りミーティング
- ・担当保健師・岩手 DCAT との定期ミーティング

◇さしおり相談処

- ・11時～17時 相談件数3件
- ・9時、15時 情報交流センター内でラジオ体操

◇熊本県社会福祉協議会

- ・厚労省本後室長、山本室長、谷内課長補佐他 4名

- ・避難所の現状報告。今後地元の介護事業所への繋いでいく必要性を話し合う

◇益城町役場 災害対策本部

- ・担当課長と話し合い。
- ・9日（月）14時30分～ 情報交流センターにて、地域包括支援センター、介護福祉士会、熊本県ケアマネ協会、社会福祉士会、ヘルパー協会と今後の避難所の方々の在宅サービスへのつなぎについて会議を行うことを決定。

<気が付いたこと等>

- ・いこいの里より初めての入浴支援依頼。
- ・各小学校避難所の保健師が新たな課題を感じている。
- ・ハピネスの担当保健師は12日より地域に出ていくとのこと。そのことによって、避難所の支援者への関わりや見守りが手薄になっていく可能性がある。

<引き継ぎ内容>

- ・さしおり相談所に、岩手 DCAT しかないことがあるので、熊本 DCAT メンバーも必ず一人は座っているようにする。・あんずでの、活動記録が、時間と活動内容だけが記載されている。・あんず事業所スタッフの皆さんに対する感謝の言葉や素晴らしい取組み等を記載する。